



# 東北に、よりそって。

東日本大震災 被災者支援活動 シャンティの取り組み 2015年-2016年

緊急救援から復興の入り口までのサポートとして取り組んだ支援活動ですが、気仙沼および岩手での活動については、地域の人たちが主体的に活動する段階に入ったと判断し、今年度をもって現地事務所を通じた支援活動は終了する予定です。これまでのご支援、ご協力本当にありがとうございました。一方、福島ではこれから復興に向けての大事な時期ととらえ、コミュニティ支援の活動に取り組んでいく計画です。

引き続き「これからの東北」に注目していただくと共に、応援をよろしくお願い致します。



公益社団法人  
シャンティ国際ボランティア会  
私たちは向き合います。苦難の中にいる人々と世界に。



# 福島でのコミュニティ支援活動、始まる。

山元事務所は2012年10月より、南相馬市の仮設団地に移動図書館車で訪問を始め、今も活動を続けています。訪問先では、南相馬市内の三地区（小高区、原町区、鹿島区）で津波被害、原発被害に遭ったたくさんの方たちと知り合いました。

東日本大震災の発災から5年。津波被害に遭った方たちの仮設団地からの引っ越しが進み、さらには、原発事故により小高区および原町区の一部に出された避難指示も、帰還困難区域を除いて解除される年となる2016年。ただし、5年という期間はあまりにも長く、すぐに故郷に戻る方はそう多くはないといわれます。原発の存在や放射能汚染への懸念もあるでしょうが、社会インフラがなかなか整わず、高齢化、過疎化が一気に進んだとしたら、戻った先の生活や将来に不安を覚える方が多いのは当然のことと思います。

山元事務所は移動図書館車で訪問を続けたご縁を大切にしながら、故郷に戻った方がその場所で少しでも健やかに過ごすことができるような、みなさんがほっとできる場づくりのお手伝いを心掛けます。

2016年は小高・原町区を拠点として、娯楽イベントの開催、シャンティの活動地であるアジア圏と地域の方たちとの交流などの活動を進めていきます。



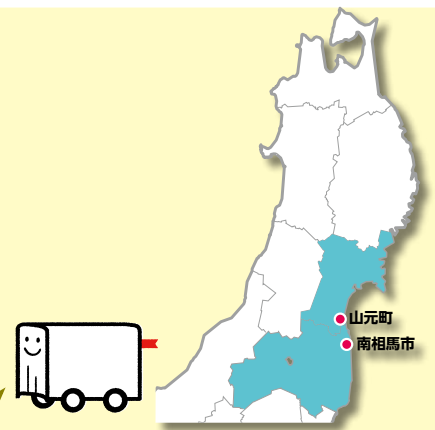
現在閉館中の小高図書館  
再開館が待たれる



## みやぎ／ふくしまを走る 移動図書館プロジェクト



高齢者にも移動図書館のファンは多い



2012年夏、宮城県最南東部、福島県との県境に位置する山元町に事務所を開き、山元町そして福島県南相馬市の仮設団地を移動図書館車で定期的に訪問し続けました。ありがたいことにこの間、運行をサポートして下さる企業、寺院、図書館、行政との輪も広がりました。

2016年、小高ー原町間、相馬ー浜吉田間のJR常磐線も再開通し、街は復興に向けてまた一步前進することでしょう。仮設団地からの引っ越しが進めば、仮設団地の集約といった話も出てくるかもしれません。山元事務所は、さまざまな変化に対応しつつ、私たちが目指した「本とともにひと息つける場」を利用して下さる方が仮設団地におひとりでもいらっしゃる限り活動を続ける、その気持ちを大切にしていきます。





多くの方々に支えて頂いた宮城県気仙沼市での活動は、2016年5月に終了することになりました。これまでのご支援、誠にありがとうございました。2011年の3月から緊急支援として始まった気仙沼での活動は、5年間に及び「子ども支援」「漁業支援」「まちづくり支援」の3分野で復興のお手伝いをして参りました。

この春、シャンティの支援活動は、おかげさまで無事に収束を迎えますが、私たちが支援してきた地域での取り組みは、今後も地元の方々によって継続されてゆきます。



「浜わらす米」の田植え (6月)



「ツリーハウス」づくり (5月)

手づくり筏<sup>いかだ</sup>で海へ! (7月)

## ■子ども支援

～地元発! 「あつまれ、浜わらす!」～

あの日、津波で多くの命が失われました。そして、人と「海」との関係は遠ざかりました。2013年の夏に始めた自然体験活動「あつまれ、浜わらす!」の目的は、子どもたちが、再び「海と向き合っていく」ことです。自然の中で遊び、地域の人達からは知恵や伝統を学びながら、子どもたちが本来持っている「いきる力」を引き出す活動です。2015年は、地域の方々の理解も深まり、協力者が増えました。同年8月、シャンティの地元職員が中心となり特定非営利活動(NPO)法人「浜わらす」を設立しました。2016年の春以降、この活動は地元の団体によって引き継がれてゆきます。

次世代へ漁業をつなげる  
「蔵内之芽組」



花農家から「つむぎの会」へ  
毎月寄せられるガーベラ

まちづくり協議会の地域向けパソコン教室 (10月)



## ■漁業支援 ～漁業のまちの目指す未来～

津波で船や漁業設備を失った漁師たちは、希望を失いかけてきました。2011年の夏。「それでも、俺たちには漁業しかない」と立ち上がった漁師たちが「蔵内之芽組」です。仕事にプライドと人生をかけた生き方は、地域の魅力の一つです。今、漁業の将来を見据え、仲間で協力して若手の育成に力を注いでいます。同じ蔵内地区の女性たちも「海の駅よりみち」を立ち上げ、人びとが集う場づくりに励んでいます。2015年シャンティでは、生業の安定化と地域の活性化を目的に海産物の加工場を建設しました。

## ■まちづくり支援

～これからも続く「まちづくり」の活動～

設立から3年目を迎えた「階上地区まちづくり協議会」では現在、地区内で保存を検討中の震災遺構「旧向洋高校校舎」を活用して、「震災」をどうやって語り継いで行くのか、ということ日々、議論しています。

「つむぎの会」は、津波でご家族を亡くされた方々が集い、悲しみの気持ちをお互いに「分かち合う」ための場所です。シャンティが支援しながら、これまで54回開催されてきました。

今後も「階上地区まちづくり協議会」と「つむぎの会」は、地元の方々によって継続されてゆきます。





## いわてを走る 移動図書館プロジェクト

2011年夏、岩手県陸前高田市で始まった、移動図書館を通じた被災地支援活動は、岩手県大船渡市、大槌町、山田町にまで広がりました。これまでに地元スタッフが中心となり、本とほっとできるひと時をお届けするため、岩手県沿岸を走ってきました。

立ち読み  
お茶のみ  
おたのしみ

山田町  
大槌町  
大船渡市  
陸前高田市

山田町での最後の移動図書館活動の後に

## ■ 岩手県の被災地の状況

2015年に入り岩手県の被災地では大型の災害公営住宅と高台移転団地が完成したことで、仮設団地からの転居が進んでいます。

仮設団地の入居率は約60%（2015年12月時点）と未だに高い水準ですが、多くの方が仮設団地を出る見通しがようやく立ち、それぞれが希望する団地・宅地の完成を待つ段階になりました。被災した図書館の再建の計画も、陸前高田市が平成28年度内、大槌町が平成30年度内の予定となり、一日も早い再開に市民の期待が膨らんでいます。

陸前高田市に完成した災害公営住宅



## ■ 活動について

岩手事務所は2011年7月より山田町・大槌町・大船渡市・陸前高田市にて、仮設団地への移動図書館、仮設団地集会所への文庫の設置、常設図書室の運営を行い累計4万6,000人の方にご利用いただき、約10万5,000冊の本を貸出しました。

復興にはまだ長い時間がかかることから岩手事務所が撤退後も成果が持続するように、地元行政・地元団体と協働し、活動を地元へ引き継ぐことにしました。

2015年12月で山田町、大槌町、大船渡市の活動のほとんどは引き継ぎを完了しました。「今までありがとうございました。あなたたちに会えなくなるのが寂しい」と多くの利用者の方から感謝と別れを惜しむ声を聞きました。

山田町立図書館に引き継がれた移動図書館集会所の中に本を持ち込み貸出をしている



新大槌町立図書館のイメージ



## ■ 今後について

2016年は引継いだ活動がスムーズに実施されるように、地元行政・団体のサポートを行います。陸前高田市で行っている陸前高田コミュニティー図書室の活動については、新しい図書館の計画に合わせて終了を予定しています。

活動で使用していた移動図書館車や蔵書は、今後も活用してもらえるように寄贈する予定です。



# 読み終わった本やTポイント、 お買い物やお食事ですまできる支援

## 気仙沼蔵内産「こいわかめ」 540円(税込)+送料



宮城県気仙沼市の蔵内地区は、起伏に富んだ地形で、寒流と暖流がぶつかる豊かな海にめぐまれた、三陸地方でも有数の好漁場です。この海で、わかめは荒波に揉まれながら豊富な栄養分を吸収するため、肉厚で味わいの深い「うま味の濃い」わかめに育ちます。

大津波の後に、一艘だけ残った船を基に、漁業の再開を決意した漁師「蔵内之芽組」が育て上げた、本場のわかめをぜひ一度、ご賞味下さい。

シャンティ こいわかめ

<http://sva.or.jp/kesenuma/shop/wakame.html>

メニュー取入れ店

**横浜ビール 驛の食卓**  
横浜市中区住吉町 6-68-1  
TEL 045-641-9901

**遊酔食市場 勢 鴨居店\***

横浜市都筑区池辺町 4328  
TEL 050-5798-4801  
\*ハマ横丁店でもメニューに取られています。

## オйкаワデニム 「大漁旗コースター」

3枚セット 1,600円(税+送料込)



オйкаワデニムは、気仙沼市内で国内外の有名ブランドのジーンズを縫製する、知る人ぞ知る地元企業です。震災直後の2011年4月、事務所を避難所として開放する一方で、発電機を回しながら工場を再開させました。そんな中、津波で流された商品の「ジーパン」が無傷で、海岸に立つ大木に引っかかっていたのが発見され「津波に負けなかったジーンズ」、「復興デニム」として産業復興の希望になっています。

シャンティ オйкаワデニム

<http://sva.or.jp/kesenuma/shop/coaster.html>

## 気仙沼「漁師のハンモック」 11,000円(税+送料込)

「漁師のハンモック」は、地元漁師たちの手で編まれています。津波で舟を失った漁師たちを中心に始まったこの試みは、震災直後の避難所で、ボランティアの発案から生まれました。

このハンモックには、漁師ならではの「定置網」を編みこむ際の技法が使われていて、とても丈夫に作られています。



シャンティ 漁師のハンモック

<http://sva.or.jp/kesenuma/shop/hammock.html>

## あんでねっと 復興のアクリルたわし 500円(税込)+送料



「あんでねっと」は、編み物をあんでネットワークを広げようという意味です。被災地域のお母さんたちが仮設団地の集会所に集まり、手しごとを通して交流の場とコミュニティづくりに取り組んでいます。

活動地の宮城県や岩手県では、地元の特産品である海の生き物などをモチーフに、アクリルたわしを手作りしています。アクリルたわしは、洗剤を使わなくても洗えるエコたわしで地球にやさしい商品です。ぜひお試しください。

売上は「あんでねっと」の現場運営費（制作者の手間賃とお母さん方の活動費）に充てています。

1つ500円と決して安価ではありませんが、応援、ご協力いただけたら幸いです。

シャンティ あんでねっと

<http://sva.or.jp/kesenuma/shop/tawashi.html>

## 本・CD・DVD・ゲームを売って 被災地の移動図書館を応援しよう！



公益社団法人  
シャンティ国際ボランティア会



BOOK-OFF Online

皆様のご不要になった本・CD・DVD・ゲームをブックオフオンラインにお売りいただき、その買取金額が移動図書館活動の図書購入費などに充てられます。

被災地の移動図書館では、時間の流れと共に、日々「求められている本」が変化しています。それにお応えできるように、皆様からお送りいただいた本などをそのまま活用するのではなく、ご寄附いただいた買取金額で「求められている本」を購入しています。



ブックオフ 移動図書館

<http://goo.gl/3oAqR>

## YAHOO! ネット募金

Yahoo! ネット募金なら、Tポイントを使って1ポイントからでも募金可能です。



YAHOO ネット募金 シャンティ

<http://donation.yahoo.co.jp/detail/723005/>

## 走れ！移動図書館

定価：本体840円+税



鎌倉 幸子 著 / ちくまプリマー新書

東日本大震災発生後、岩手事務所と、津波で被害を受けた陸前高田市、大船渡市、大槌町、山田町で「いわてを走る移動図書館プロジェクト」を立ち上げた、当時の広報課長 鎌倉幸子の著書。

震災発生後なぜ移動図書館を始めたのか、活動を始めるために大切にしたい「4つの視点」、どのような本がどうして選ばれ読まれたのか、本を通じた支援の在り方を指し示しています。東北の方々の声や、声にまだできない気持ちもお伝えしています。どうぞご覧ください。

# シャンティ国際ボランティア会（シャンティ）とは？

1981年、カンボジア難民キャンプで人々の精神的な支えとなるために図書館をつくったことから活動がスタートしました。以来30年以上にわたり、図書館活動を中心とした、アジアの子どもたちのための教育支援を行っている

NGOです。また、阪神・淡路大震災以降、国内外20を超える災害救援を行い、東日本大震災では、宮城県気仙沼市と岩手県釜石市、宮城県亘理郡山元町に現地事務所を開設して、長期的な支援活動を行っています。

## 残された課題に向き合って

東日本大震災被災者支援に携わってから6年目に入ろうとする中で、シャンティの活動は、それぞれの地域の復興状況を見すえながら、地元でその役割を引き継ぎ、収束へと向かって段取りをしているところです。

気仙沼事務所の「まちづくり支援」「子ども支援」「生業支援」の各活動は、未来をにう子どもたち対象の特定非営利活動（NPO）法人「浜わらす」設立をはじめ地域主体の活動に収斂し、岩手・山元の両事務所が取り組んできた移動図書館活動は、それぞれの自治体等にバトンタッチすることになっています。どの支援活動も地域社会再生を目標に、人と人との心の交流を陰から支えることを心がけてきました。それは、シャンティの理念でもあり、アジア各地で発災した自然災害被災者支援で培ってきた心でもあります。地域社会を形づくる大事な要素は、単に情報が伝わるということだけではなく、いかに地元の人と人が心の交流を持てるようになったか、ということだと思います。勿論それは永遠の課題ではありますが、それにどれだけ近づけたか否かを問うことが肝要だと思います。

これから各事務所収束に向けて行く中で、まだまだ懸念される事柄もあり、特に福島での活動については、また別の大きな問題として残されています。それらをつつひとつ丁寧に対応してゆくことがこれからの課題です。

公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会  
会長 若林 恭英

## 東日本大震災支援募金 決算報告書

(2015年1月1日～12月31日)

### 【収益】

項目	金額
指定正味財産からの受取寄付金振替額	91,694,512
指定正味財産からの受取補助金振替額	13,312,400
雑収益	527,606
収益合計	105,534,518

\*東日本大震災支援募金はすべて一旦、指定正味財産の受取寄付金/受取補助金として計上した後、費用に応じて収益に振替えています。

### 【費用】

項目	金額
復興支援費（気仙沼事業）	24,027,232
復興支援費（岩手事業）	38,786,855
復興支援費（山元事業）	17,555,131
共通費用	24,792,947
費用合計	105,162,165

### 【2015年度寄付金・補助金】

項目	金額
東日本大震災・無指定募金	13,944,687
気仙沼事業指定募金	923,874
岩手事業指定募金	1,069,701
山元事業指定募金	1,538,856
特定非営利活動法人 ジャパン・プラット フォームからの補助金（気仙沼）	9,929,800
一般財団法人 日本国際協力センターからの 補助金（気仙沼）	3,010,000
岩手県教育委員会からの補助金（岩手）	5,164,344
合計	35,581,262

【東日本大震災支援寄付金預金残高】 88,885,147

## 募金のお願い

被災地の復興は中長期的な活動となります。引き続きのご支援をお願いいたします。

### ●郵便振替での募金

郵便振替 00170-8-397994  
加入者名 SVA 緊急救援募金

### ●クレジットカードでの募金

<http://sva.or.jp/donate-t/>

※税制優遇について：この募金は税制上の優遇も受けられます。送られてきた募金の領収書を保管しておいてください。確定申告の際に必要になります。



公益社団法人  
シャンティ国際ボランティア会  
私たちは向き合います。苦難の中にいる人々と世界に。

〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階  
TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220  
HP <http://www.sva.or.jp/> E-Mail [eru@sva.or.jp](mailto:eru@sva.or.jp)



### 表紙の写真

上：野馬追出場に向け早朝から練習が続く（南相馬市原町区） 下：南相馬市小高区

撮影：フォトジャーナリスト 安田 菜津紀さん

現在、カンボジアを中心に、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で貧困や災害の取材を進める。